

幼稚園・保育園における、運動場面の工夫や保護者への情報発信を通じた体を動かす機会を確保する取組

多治見市立公立幼稚園・保育園（岐阜県）

全幼児数 1221名（男児651名 女児570名）

（本事例に係る問合せ先） 多治見市教育研究所

電話番号 0572（43）3131 内線 2232

メールアドレス k-ken@city.tajimi.lg.jp

1 研究のねらい

「幼児期運動指針」を活用し、幼児期の運動量の確保や多様な動きの獲得、体力・運動能力の基礎等を培う

2 研究の概要

平成23年度に多治見市内公立全小・中学校において新体力テストを実施したところ、小学校においてほとんどの学年、種目において全国平均を下回る結果となった。多治見市の児童生徒の体力低下は深刻な問題であり、改善を図るためには、幼児期から進んで運動する習慣を付けることが必要である。

そこで、文部科学省作成の「幼児期運動指針」を活用し、幼児期の運動量の確保や多様な動きの獲得、体力・運動能力の基礎等を培うことを目標としてこの事業に取り組んだ。

○実践プログラムの紹介

1 運動場面の工夫

市内全公立幼稚園・保育園において、「体力アッププラン」を作成。その中で、毎日「いきいき運動タイム（運動を通して楽しみながら体力をつける時間）」を位置づけ継続的・意図的に運動の時間を確保。運動遊具や運動場面を工夫しながら取り組んでいる。特に、多様な動きを経験できるよう運動遊具を組み合わせるサーキット遊びを行っている園が数多くある。



2 健康・運動に関する情報を保護者へ発信健康・運動に関する情報を通信等で保護者へ発信。また、親子で参加する講演会で親子遊びを紹介した。

その他、抽出席園において、親子で活動量を測定し、家での運動機会を確保する意識を高める取組を行った。



○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

運動プログラムについては、幼稚園・保育園長、学級担任が共通理解を図るとともに、大学准教授、市教育委員会、子ども支援課等の指導の下で実施している。

○成果の意義と今後の課題

- 1 市内の公立すべての園で工夫されたいきいき運動が実施された。手作りの運動遊具を作成し、多様な動きを経験させようと工夫する園も出てきた。
- 2 活動量を測定した保護者は、運動への意識が高まり、子供の活動量もアップした。公立すべての園で実施できないことが課題である。

○ 研究内容

【運動場面の工夫】

ラインに沿ってフラフープに挑戦



【運動器具の工夫】

新聞紙でつくったボールで投げ合いゲーム



【親子遊び講演会】

親子遊び講演会を実施



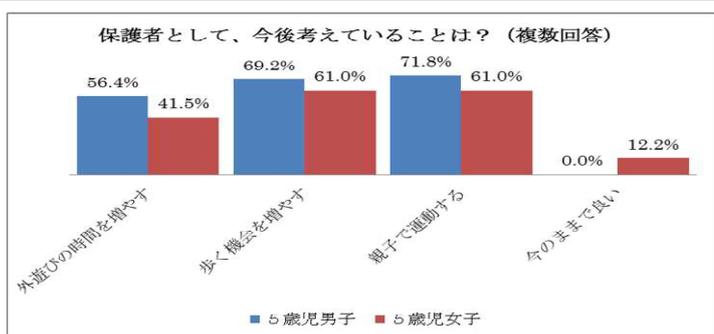
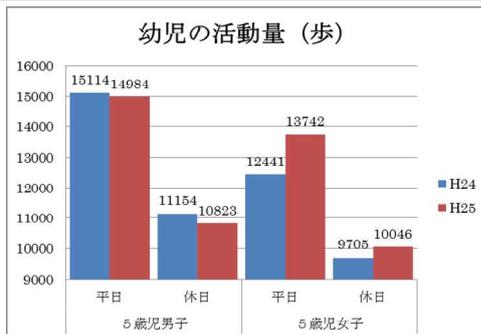
【親子でウォーキング】

親子で活動量計をつけてウォーキング



【取組の成果】

親子で活動量を測定することで女子の活動量が増えるとともに、保護者の意識が高まった。



【保護者へのさらなる啓発】

積極的に保護者へ情報発信することで運動の機会を増やしていく。



保護者対象の講演会実施の有無で園児の活動量を比較したところ、わずかであるが差が見られた。今後も保護者に対して運動量の確保を呼びかけていく。